わがまちの

地域おこし協力隊を紹介します！ Vol.10

菊池市地域おこし協力隊に新たに５人のメンバーが加わりました。都市部から菊池市に移住してきた彼らは、「文化」「健康」「観光」「ブランド」「魅力発信」の５つの分野で地域おこしに取り組んでいます。任期は最長で３年間。活動終了後も本市に定住してもらう予定です。なぜ都会から菊池市に移住してきたのか。ここでどんな取り組みをしていくのか。地域おこし協力隊の人物像や活動内容をシリーズでお届けします。

問い合わせ先　企画振興課　☎0968(25)7250

ブランド推進マネージャー

前島（まえじま）　赳（たけし）さん

出身：東京都目黒区
趣味：ワイン、料理、写真、サイクリング
特技：水泳
座右の銘：自分が笑えば　相手も笑う

―なぜ菊池市の協力隊に？

夫婦で熊本に移住を決意してから、約10日間かけて熊本全体をまわりました。その中でも水と食がおいしい菊池市に住みたいという希望が一致して移住を決断しました。

そこで、協力隊の情報を知り、自分の経験が生かせると思い応募しました。

―どんな活動を行っていますか。

ＳＮＳを利用し、世界中に菊池市の情報発信を行ったり、６次産業化に向けた調査を行ったりしています。今後は加工品などの販路拡大を目指し、いろいろな場所で菊池市をアピールしていきます。

―菊池市の印象はいかがですか。

とにかく食べ物がおいしい。そして水がおいしい。環境も良いので今の生活にとても満足しています。地域の人も温かく、「関東から引っ越してきました」と言ったら「ようこそ菊池へ」と歓迎してくれました。

―３年後、菊池市をどんなまちにしたいですか。

地域おこし協力隊として、「食・観光・文化・移住定住・健康」どれも優れたまちにできればなと思います。今住んでいる人も、これから住もうとする人も、みんなが「菊池って良いとこだよね」と思えるまちにしたいです。

―ありがとうございました。

次回は、魅力発信マイスターの伊藤（とうどう）亮（りょう）さんを紹介します。

シリーズ 文教の偉人 ⑦

渋江抽斎（しぶえちゅうさい）（1788～1846）

渋江抽斎は松石の三子として生まれ、名を公豪と言いました。勉学や作詩の才能も非常に優れていましたが、軍学や剣術を修めるなど、文武両道の逸材でした。

松石の私塾「星聚堂（せいしゅうどう）」では、兄の龍淵（りゅうえん）と共に補佐役を務めました。父の死後、龍淵は天草に渡って教育普及に努め、抽斎もまた天草地域を治める高木作右衛門（たかぎさくえもん）の招きを受けて1817（文化14）年に天草に渡りました。

抽斎は天草で4年間、若者の教育に尽くした後、隈府に帰って郷土の教育に専念しました。私塾「梅花書屋（ばいかしょおく）」を開き、正観寺村に住居「釣月亭（ちょうげつてい）」を建てました。築地井手の清流に囲まれ、遠くは鞍岳を望み、田園が広く開けた風光明媚なところで、多くの友人たちとここで詩をつくったり議論を交わしたりしました。

友人との交流を大事にした抽斎の交友関係は広く、木下韡村（きのしたいそん）、広瀬淡窓（ひろせたんそう）、横井小楠（よこいしょうなん）の名前を記録の中に見ることができます。広瀬淡窓は、幕末のころ九州屈指の大学者と呼ばれ、全国各地からその門戸を叩く人がいたほどの人物です。抽斎が訪ねてきたことは本人の日記にも残っています。横井小楠は、釣月亭について詠った漢詩が残っています。熊本城下から菊池を訪れた小楠が、釣月亭の門前で詠んだと思われるもので、抽斎への深い敬意を表しています。

「梅花書屋」での抽斎の熱心な教育は、藩からも大きな評価を受けるものでした。当時の教育界における重役を歴任し、1840（天保11）年、多年にわたる業績を認められ、毎年俸米（給与）を下賜されることになりました。これは、抽斎に学んだ人たちの嘆願から実現したといわれています。

1845（弘化2）年、抽斎は中風（脳血管障害）を患い1年ほど病床に伏し、翌年7月、59歳で亡くなりました。

釣月亭跡地付近から見える風景

問い合わせ先　生涯学習課　☎0968(25)7232

元気いっぱい！ 夢いっぱい！

菊池っ子だより Vol.27

市内の各小中学校で行われているさまざまな取り組みをピックアップしてご紹介します。

問学校教育課　☎0968(25)7231

七城中学校

地域未来塾がスタートしました

7月25日

真剣に学習する生徒たち

本年度からスタートした地域未来塾は、中学生に「夢」や「希望」の実現に向けた学習機会を提供するため、大学生や元教員、学習塾などの民間教育事業者など地域のさまざまな人の協力と国・県・市の支援を受けて始まりました。この取り組みを通して学力の向上を図り、多くの生徒が希望の進路に進むことができればと考えています。

泗水中学校

ワークキャンプ

7月25日・8月1日

利用者と交流を楽しみました

利用者とレクリエーション

つどいの広場

福祉やボランティア活動・社会貢献への関心や意欲を深めることなどを目的に、菊池市社会福祉協議会主催のボランティア体験活動（ワークキャンプ）が開催され、１年生16人が参加しました。特別養護老人ホームや交流や育児に関する情報交換を行う「つどいの広場」などで、施設利用者と交流しました。

花房小学校

地域住民と交流！花房ふれあい会

9月7日

笑顔で交流しました

全校児童が花房公民館で学年ごとに地域のおじいちゃんやおばあちゃんと交流しています。花房地区社会福祉協議会の協力で１年間に６回行われており、あいさつや児童の発表、自己紹介、ゲームなどで交流を深めます。毎回優しい雰囲気で、心温まる時間です。

旭志小学校

町の魅力を再発見！

8月30日

冷たく透き通っている水源

地元の人たちが大切に管理

２年生の生活科の学習「町探検」で、旭志の各地区に出掛け、すてきな人や場所を発見しています。「井川さん」もその一つで、地域の人たちが湧水地として大切にしてきたものです。見学した児童は「ぷくぷくあわが出ているのが見えた」「水はとっても冷たかった」と話していました。

泗水西小学校

島保育園で踊りを披露

7月30日

力いっぱい踊りました

６年生が田島保育園の夕涼み会で、運動会でも披露した「エイサー」を踊りました。子どもたちの元気な踊りに観客から大きな拍手が送られました。子どもたちはジュースの販売も行い、どうしたら買ってもらえるのか話し合いながら懸命に販売していました。